

2013 年度（対象年度：2012）自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 1	理念・目的
------	-------

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:あまり実行していない」「D:実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
101	建学の精神は、適切に設定されていますか。	建学の精神は、本学が目指すべき方向性や育成する人間像を明らかにしていますか。	A	A
		建学の精神は、教育、研究、社会貢献の面で具現化されていますか。【どのように】	A	
102	建学の精神が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されていますか。	明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。	B	B
		構成員(教職員および学生)に対し周知し、十分理解されていますか。【どのように】	B	
		社会に対し、公表していますか。【どのように】	A	
103	建学の精神の適切性について、定期的に検証を行っていますか。	建学の精神の適切性について、検証しましたか。【どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。 2011 年度から開始した全学的な自己点検・評価において、建学の精神の周知状況について検証したところ、建学の精神の理解を深めるための手段であった表現等が、あたかも新たな「建学の精神」であるかのごとくに使用されている状況が一部で確認され、本学の建学の精神が「浄土真宗の精神」とであるという認識の共有が構成員の間で不十分であることが判明した。全学大学評価会議から 2011 年度の自己点検・評価における大学全体の「努力課題」として改善の指摘がなされ、これを受けて、第 21 回部局長会（2012.9.27 開催）において、本学の「建学の精神」の具現化にかかるこれまでの経緯や問題点を整理し、各用語の位置づけを改めて明確化するとともに、構成員の共通認識とするために「龍谷大学の『建学の精神』」を審議・決定した。 このことについて、課長会・教授会を通じて構成員に周知するとともに、ホームページや『龍大月報』に掲載し、広く周知した。事務職員会総会（2013.3.19 開催）では全事務職員を対象に「建学の精神について」をテーマとして研修会を実施し理解を深めた。また学友会サークル部室や大学院生の共同研究室、講師控室等、教員個人研究室、事務室等にポスター等を掲げたり、英文に翻訳したリーフレットを配布して、教職員や学生が常に目にすることができるようにした。その他、学生手帳、出講手帳等は更新時期に順次改訂することになっている。 [改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 ・何をもちて周知していると判断できるのか。【留意点】 ・「建学の精神」の教職員への有効な周知方法について不十分な点が認められるので改善が求められる。【努力課題】 ・ホームページ以外の社会への公表媒体において、記入漏れは齟齬がないか確認することが必要。【努力課題】 ・「建学の精神」に対する構成員の認識にばらつきが起こった現状の改善を契機として、今後の防止策も含め定期

的に検証する体制を構築することが必要。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・建学の精神に関わる各用語の使用法・表現の統一。
各用語を使用する場合は、第21回部局長会（2012.9.27開催）の見解に基づいて使用することとしたこと。
- ・明文化した「建学の精神」をさまざまな媒体（ポスター、掲示板、額、リーフレット、手帳、大学案内誌等）で確認できるように努めている。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・明文化した「建学の精神」について、月例法要や公開講演会、学内研修等を通じて言葉で解説し、理解を深められるよう努める。
- ・既存の印刷物の記載内容の更新に努める。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
101 - 、	学校法人龍谷大学寄付行為・龍谷大学学則（抜粋）
101 - 、102 -	龍谷大学「建学の精神」
102 - 、103 -	第21回部局長会（2012.9.27開催）資料、議事録抜粋
102 -	建学の精神の外国語表記について（学長会提案資料）
102 -	Ryukoku University Guide Book 2012
102 -	ホームページ http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html

・評価結果

総評

2011年度の自己点検・評価において大学全体の「努力課題」として改善の指摘がなされた事項について、部局長会（2012.9.27開催）において、本学の「建学の精神」の具現化にかかるこれまでの経緯や問題点を整理し、各用語の位置づけを改めて明確化するとともに、構成員の共通認識とするために「龍谷大学の『建学の精神』」を審議・決定したことから、建学の精神は、適切に設定されていると評価できる。

大学構成員（教職員および学生）への周知の方策についても、多くなされていると評価できる。

ただし、「建学の精神」の存在を知らない学生が多く存在し、さらにはブランドコンセプト「You,unlimited」と混同する学生が多く存在することは、2012年度全学協議会において指摘されている。また、正式な徽章を知らず、ブランドロゴマークを校章と勘違いしている学生も多く見られる。このようなことから、構成員（教職員および学生）に対し正しく周知し、十分理解されているか否かを測定する手法の開発が望まれる。

今後、不変の建学の精神の浸透と、社会の変化をとらえながら未来を指向するブランドの浸透とを、同時に進める効果的な方法を、教職学協働で検討する必要がある。

伸長すべき点(長所) 《箇条書き》

- ・「龍谷大学の『建学の精神』」が明文化され、様々な手法で構成員に周知を図るとともに、HPを介して社会に公表している点は評価できる。今後も、より一層の理解を得られるよう努めていただきたい。

改善すべき点 《箇条書き》 * 各項目に[改善勧告][努力課題]又は[留意点]を記載

- ・「建学の精神」を知らない学生が多く存在し、さらにはブランドコンセプト「You,unlimited」と混同する学生が多く存在することは、2012年度全学協議会において指摘されている。また、正式な徽章を知らず、ブランド

ロゴマークを校章と勘違いしている学生も多く見られる。今後、不変の建学の精神の浸透と、社会の変化をとらえながら未来を志向するブランドの浸透とを、同時に進める効果的な方法を、教職学協働で検討する必要がある。【努力課題】

- ・「建学の精神」を、構成員（教職員および学生）に対し正しく周知し、十分理解されているか否かを測定する手法の開発が望まれる。【留意点】

【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

2013 年度（対象年度：2012） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 1	理念・目的
------	-------

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
101	教育にかかる基本方針は設定されていますか。	教育にかかる基本方針は建学の精神が反映されたものになっていますか。	A	A
		育成する人間像は、明確ですか。	A	
102	教育にかかる基本方針は構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されていますか。	明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。	B	B
		構成員(教職員および学生)に対し、周知し十分理解されていますか。【どのように】	B	
		社会に対し、公表していますか。【どのように】	A	
103	教育にかかる基本方針の適切性について定期的に検証していますか。	教育にかかる基本方針を検証しましたか。【どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。 点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
建学の精神を反映した「龍谷大学の教育にかかる基本方針」を設定し、履修要項等に明示している。 大学の教育にかかる基本方針(育成する人間像)として、「建学の精神に基づいて、『平等』『自立』『内省』『感謝』『平和』の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生(ともいき)の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、『広い学識』と『進取の精神』を持って人類社会に貢献する人間を育成する」ことを履修要項等に明示している。 教育にかかる基本方針については、学内で統一した明示ができていなかったことから、2013 年度から履修要項等の各媒体に明示する原稿の統一を図った。 上記 のとおり構成員に対し周知を行っている。また、2012 年度第 20 回教務会議(2013 年 3 月 22 日開催)において、各学部に対し新入生対象履修説明会で教育にかかる基本方針を周知するよう要請した。 教育にかかる基本方針の理解状況については、調査を実施していないため検証ができていない。 教育にかかる基本方針について、大学ホームページ等を通じて広く公表している。 教育にかかる基本方針について、自己点検・評価制度により検証している。
[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点(【改善勧告】【努力課題】【留意点】)」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。
・理念・目的が大学の諸活動の実績及び(大学が)保有する資源との関係において、育成する人間像や大学の特徴の明確化に反映されているのか、その適切性については検証が必要である。 ・校内研修等を開催し、大学が掲げる理念・目的について大学構成員がその理解を深化させるよう努める。 ・本学の理念・目的と第 5 次長期計画の整合性を確認していただきたい。【留意点】 ・本学の育成すべき人間像を明確にすることが必要である。【努力課題】

- ・本学の教育・研究・社会貢献の特徴を明らかにし、本学の個性を明確にすることが必要である。まず、教育・研究・社会貢献の方針を確認することが必要である。【努力課題】
- ・周知状況の調査方を検討していただきたい。【留意点】
- ・ホームページ以外の社会への公表媒体において、記入漏れや齟齬がないか確認することが必要である。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・2011 年度に構築した自己点検・評価制度により、大学の理念・目的について、定期的に検証を行うことが可能となった。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・教育にかかる基本方針の周知状況及び理解状況の調査・検証

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称

・評価結果

総評
教育にかかる基本方針について、各学部の履修要項等に明示するよう指示された点は評価できる。ただし、構成員（教職員および学生）に対し、周知し十分理解されているか否かを判定する手法の開発が望まれる。 教育にかかる基本方針は、自己点検・評価にて検証しているとあるが、どのような手法を用いて誰が検証しているのか、そのプロセスについても明らかにされたい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
特になし
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項目に[改善勧告][努力課題]又は[留意点]を記載
・教育にかかる基本方針について、構成員（教職員および学生）に対し、周知し十分理解されているか否かを判定する手法の開発が望まれる。【留意点】
[改善勧告][努力課題]は、改善計画書の提出が必要